

80年代へ更なる団結強化を確言。

勝浦支部は、1月19日、運転区講習室において、第2回定期大会を開催した。昨年4月26日、一〇〇%団結署名のもと動労千葉勝浦支部の結成をもちとて以来今日まで、動労「本部」反動集団による破壊オルグに対して全組合員一糸乱れず対決し「一歩たりとも職場に入れない」闘いで組織防衛戦に完全に勝利し抜いてきている。定期大会は、①反合・運転保安の闘いを中心として、「国鉄35万人体制」攻撃に抗する闘いを職場生産点からつくり出すこと。②この闘いこそ、80年代を闘い抜く大きな柱であること。③そのためには、ひとり、ひとりの組合員が、創意ある闘いを展開する必要があること。など活発な討議の中から、80年代へ更なる団結強化を全体で確認し、成功裡に終了した。

運転保安確立をめざし原則にたつて闘い抜く

大会は、高田支部教宣部長の開会宣言で始められ、議長に、渡辺代議員を選出し議事が進められた。

冒頭、挨拶にたった窪田支部長は、「昨年4月支部結成以来、熾烈な『本部』反動暴力集団との闘いに勝利し、大会が開催できたことに、全組合員の皆さんに敬意を表するとともに、今日不当処分を受けた、当局・『本部』反動暴力集団一体となった千葉破壊を許さず、かつて闘い抜いた運転保安の再構築をめざし闘い抜こう」と力強く決意を明らかにした。

来賓として、夷隈地区労高橋事務局次長よりの連帯の挨拶をうけ、本部中野書記長より、今日の情勢、国鉄35万人体制攻撃のもつ反動性、国労・動労中央、特に動労「本部」反動暴力集団の裏切り、反撃の闘いの配置と展望など本部の考え方を明確に打ち出した。つづいて議事に入り、経過報告、運動方針案、決算、予算案の順に支部執行部よりそれぞれ提案された。

80年代の情勢を切り拓く活発な討議を展開

経過報告では、昨年3月19日以降の「本部」反動暴力集団の組織破壊オルグの実態が、逐一報告され、闘いをふりかえった代議員・傍聴者の顔は、勝利の自信にあふれていた。

質疑の中でも、①国鉄35万人体制攻撃と生産点の闘いについて、②三里塚・ジェット闘争、③春闘情勢の分析と、大巾賃上げの闘いの進め方について、④要求と闘いの必要性、⑤共闘関係、⑥ローカル線廃止反対等々具体的な闘いにふまえた核心をついた質疑が多く出された。

本部執行部、支部執行部より質疑に踏まえた答弁がそれぞれ行われ、運動方針などが満場一致、

拍手で確認され窪田支部長の力強い団結ガンバリをもって大会は圧倒的にかちとられた。勝浦支部は、こうして第2回定期大会の成功をもって、一五〇名組合員の団結を一層強固なものとした。

勝浦支部は、かつて、75年3月ダイ改を中心にした二〇〇〇分の列車遅延を現出する闘いを、支部の最先頭で闘い抜き、強固な団結力、結集力をもって、今日の労働条件、職場慣行をかちとってきた。今後加えられてくるであろう、様々な反動を、職場からの闘いをもってはねかえし、力強い組織強化・前進をお互いに確立しよう。

選出された役員

支部長	窪田 亮 (電運士)
副支部長	亀岡直芳 ()
書記長	岩瀬昌利 ()

社会党県本部旗開き盛大に開催される

社会党千葉県本部旗開きは1月19日、千葉ニューパークホテルに約五〇〇名が結集し盛大に開催された。

県本部・渡会委員長、中央本部・飛鳥田委員長のあいさつを受け、次期参院選の候補者、地方区・赤桐操、全国区・粕谷照美両氏からの決意表明、アトラクションなどが行われ盛会のうちに全体で参院選勝利をはじめ闘う決意をうち固めて終了した。

動労千葉からは、本部・布施組織部長をはじめ各支部からの代表11名が参加した。

勝浦支部定期大会開催される！

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！